

大津企業景況調査報告書

(第66回)

平成26年 7月～ 9月期 実績

平成26年10月～12月期 見通し

大津商工会議所

大津企業景況調査について

(平成26年7月～9月期)

1. 調査方法

大津商工会議所会員企業 100 社に F A X 方式による調査

2. 調査企業

産 業 別	調査対象企業数	有効回答企業数	回 収 率
建 設 業	20社	14社	70.0%
製 造 業	10社	9社	90.0%
卸 売 業	10社	8社	80.0%
小 売 業	30社	24社	80.0%
サービス業	30社	29社	96.6%
合 計	100社	84社	84.0%

3. 調査期間

調査対象期間は平成26年7月～9月とし、調査時点は平成26年9月8日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指数として DI 指数を採用した。DI 指数とは Diffusion Index (景気動向指数)の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値である。

「業況」、「売上高」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は、前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金借り入れの難易度」の DI 指数は、3ヵ月前との比較である。

「取引の問合せ」、「採算(経常利益)の水準」の DI 指数は、過去比較でなく水準を聞いたものである。

景況感が悪化、先行きも改善の足取り鈍い

平成 26 年 7 月～9 月期の大津企業景況調査の結果がまとまった。調査結果を示す指数として DI 指数（景気動向指数）を採用している。DI 指数は実数値などの上昇率を示すものでなく、強気、弱気などの経営者マインドの相対的な広がりの意味する。

全体

消費増税から半年がたち、景気回復のもたつきが続いている。景況は、全体の業況判断 DI（前年同期比）が▲23 と前四半期から 14 ポイント悪化した。前四半期に DI が▲8 まで回復すると見込んでいたが、それより大幅に落ち込んだ。業種別では、全業種で前回水準及び前回の先行き見通しより落ち込んだが、それは資材価格の上昇や 8 月の長雨等の影響があるとみられる。

先行きは、業況判断 DI が▲18 とやや改善すると予想しているが、改善の足取りはなお鈍いものとなっている。業種別では、ものづくり補助金の下支え等により製造業がプラスに転じ、消費増税の反動減の影響が薄れる小売業が改善する見通しであるが、他業種は、円安による燃料、素材価格等の上昇等もあり、それほど改善しないと見込んでいる。

□ 業況判断 DI（前年同期比）は、大幅に悪化し、景気回復にもたつき

「前年同期比でみた業況判断 DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、▲23 と前四半期から 14 ポイント悪化し、景気回復のもたつきが続いている。業種別では、全業種で前回水準及び前回の先行き見通しより落ち込んだが、それは資材価格の上昇や 8 月の長雨等の影響があるとみられる。

□ 売上 DI（前年同期比）は大幅減少。卸売業は減少幅縮小するも、他業種は減少

「前年同期比でみた売上 DI(全体)」(「増加」－「減少」)は、前四半期の▲9 から今四半期▲29 と大幅減少した。業種別にみると、卸売業は減少幅が縮小したが、前四半期に堅調であった製造業、建設業が減少に転じ、小売業、サービス業も減少が続いている。

□ 採算 DI（前年同期比）は悪化が続く。建設業、サービス業が大幅に悪化

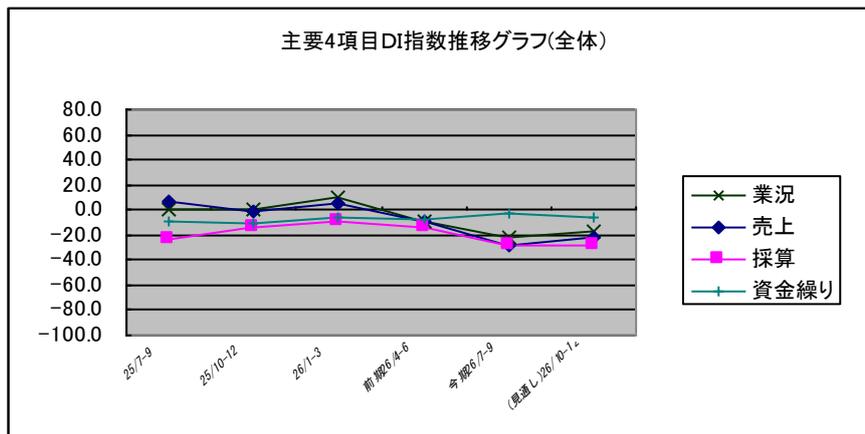
「前年同期比でみた採算(経常利益) DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、前四半期▲15 から今四半期▲29 と悪化が続いている。業種別にみると、建設業、サービス業が大幅しているが、製造業、卸売業は改善している。

□ 資金繰り DI（3 ヶ月前比）はやや改善。製造業が好転から不変になった他は改善

「3 ヶ月前比でみた資金繰り DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、前四半期の▲8 から今四半期▲4 とやや改善した。業種別にみると、製造業で好転から不変になった他は改善した。

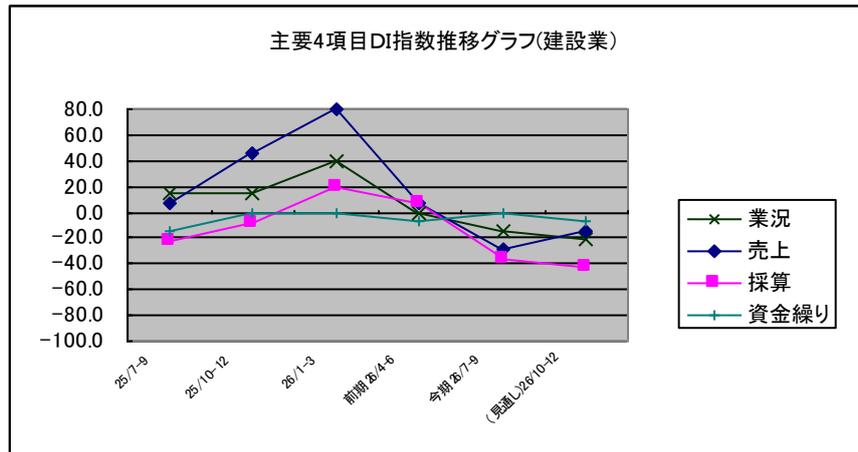
□ 従業員 DI（前年同期比）は人員不足が続く。サービス業、小売業、建設業で特に顕著

「前年同期比でみた従業員 DI(全体)」(「不足」－「過剰」)は、前四半期の+15 が今期+16 と人員不足が続いている。業種別にみると、サービス業、小売業、建設業で人員不足が特に顕著である。



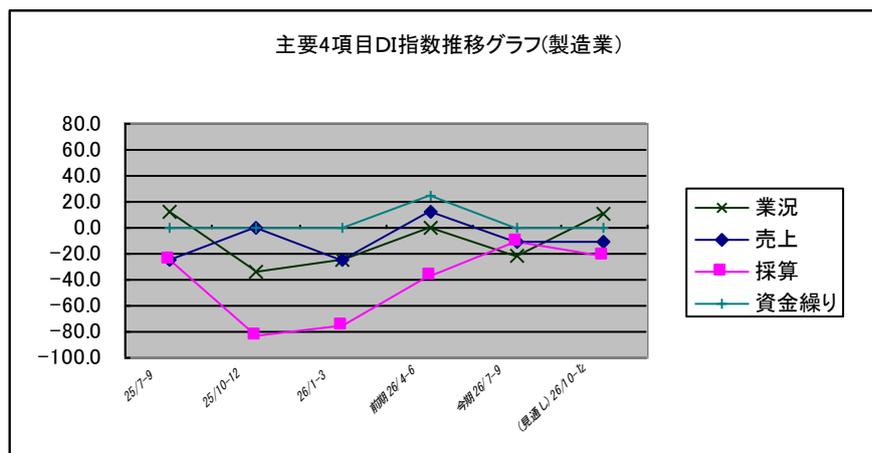
建設業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期±0 から今四半期も▲14 と 5 四半期ぶりに悪化した。個別指標をみると「売上」が前四半期の+7 から今四半期▲29 と大幅悪化し、かつ「採算」も大幅に悪化して採算水準も収支トントンまで悪化した。また「問い合わせ」も減少した。これは公共工事や民間工事受注が駆け込み受注の反動等で売上が一服する中で、資材価格の上昇や人手不足が続いていることから、採算が悪化したとみられる。一方で、長雨による雨漏り補修工事が出たりしている。



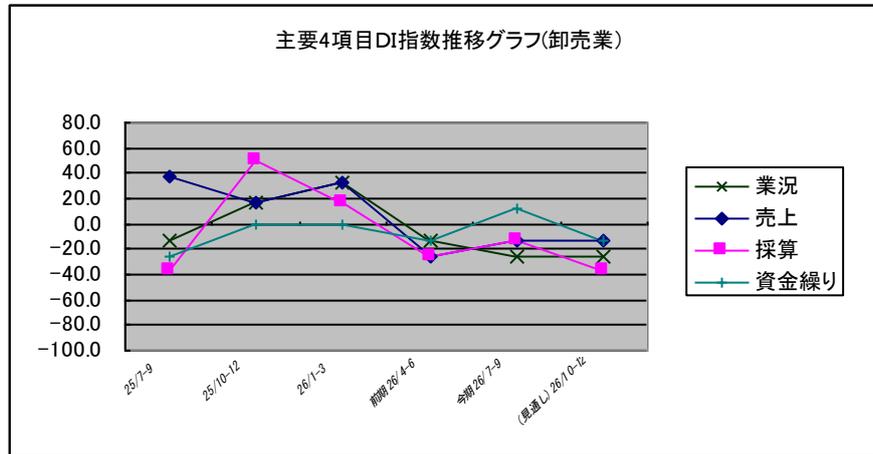
製造業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期±0 から今四半期は▲22 と大幅悪化した。個別指標をみると「売上」は前四半期の+13 から今四半期▲11 と減少し、「採算」も前四半期の▲38 から今四半期▲11 と悪化幅が縮小するも「採算水準」は黒字企業が減っている。「人員」は 4 四半期連続±0(過不足なし)である。一部に天候不順による売上減少の影響も出ている。



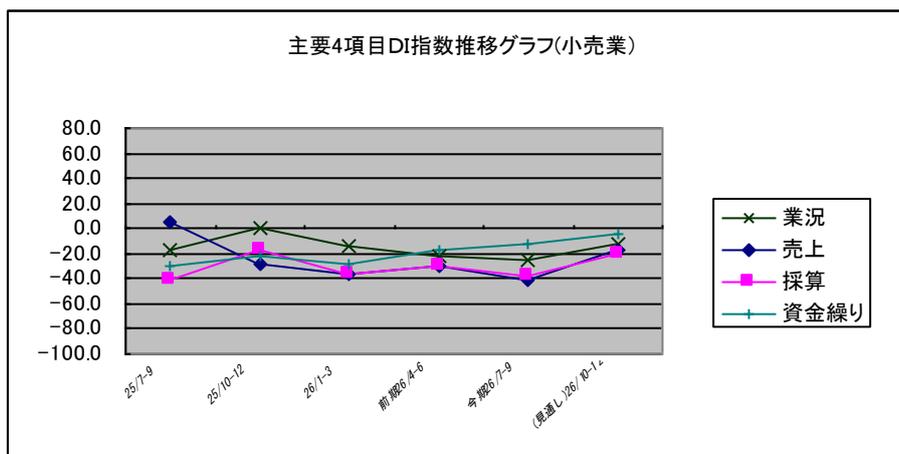
卸売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲13 から今四半期は▲25 と悪化した。個別指標をみると「売上」は前四半期の▲25 から今四半期は▲13 と減少幅は縮小し、「採算」も悪化幅が縮小したが、「採算水準」は黒字企業が減少した。「問い合わせ」も減少が続いている。消費増税の影響が出ているとみられる。



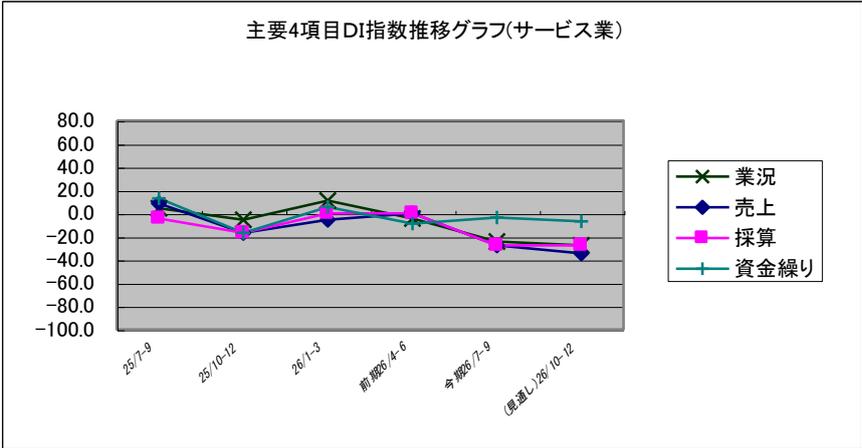
小売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲22 から今四半期は▲25 と悪化が続いている。個別指標をみると「売上」は更に減少が続き、「採算」も更に悪化が続いており、採算水準は赤字基調である。「人員」も不足が続いている。消費者の中には一部に高品質を求める動きも出てきているが、消費増税後の低価格志向もあり、燃料や素材価格の上昇による経費の増加等が採算悪化を招いているとみられる。



サービス業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲4 から今四半期は▲24 と更に悪化した。個別指標をみると「売上」は前四半期の±0 から今四半期は▲28 と大幅に減少し、「採算」も大幅に悪化した。「問い合わせ」も大幅に減少している。「従業員」は人員不足が続いている。消費増税の影響で受注環境が厳しくなっていることや宿泊・飲食サービスは 8 月の悪天候が大きく影響したとみられる。加えて人員不足による人件費上昇も採算に影響している。



来四半期 (3 ヶ月後) の「業況」DI は、今四半期の▲23 から▲18 とやや改善すると予想しているが、改善の足取りはなお鈍いものとなっている。個別指標をみると、売上の減少幅が縮小し、採算水準が黒字化するとみている。業種別では、ものづくり補助金の下支え等により製造業がプラスに転じ、消費増税の反動減の影響が薄れる小売業が改善する見通しであるが、他業種は、円安による燃料、素材価格等の上昇等もあり、それほど改善しないと慎重な見方をしているものとみられる。

3 ヶ月後の設備投資については、設備投資計画があると回答した企業の割合は全体で前四半期から 7 ポイント増えて 29%であった。業種別にみると、卸売業が最も高く 50%、製造業 33%、小売業 30%、サービス業 28%、建設業 14%であった。投資企業の投資内容の割合は、「更新投資」が 45%で最も多く、「合理化・省力化投資」が 24%であった。投資方針は、「計画通り」が 50%あり、更新投資が多いことによると思われるが、併せて投資意欲が回復してきた背景には「ものづくり補助金」等の政策による後押しも大きいと考えられる。

田中マネジメント事務所
MBA・中小企業診断士 田中清行

(今の経済情勢に対する意見)

今の経済情勢に対する意見を寄せた企業は10社であった。

- ・天候の不安定さにともなって、売上も少し低調です。(製造業)
- ・消費税8%→いずれ10%になる予定の中、燃料に税金を取りすぎと思います。税金に税金がプラスされています。こまった事です。(小売業)
- ・消費税増税後(4月)顧客以外の不特定一般客の買い控えがそのまま業況に反映。今後の10%への増税には反対せざるを得ない。(小売業)
- ・安かろうを求める方が減って、多少なりにも高品質を求める方が増えた。一方、姑息で悪質な金品目的のクレームが増えてきて、気持ちとして悲しくなる。万引犯の顔写真公開したくなるのは、理解できます。(小売業)
- ・団塊世代のリタイヤが進み社会の流れが大きく変わっているのを感じます。好みや考え方が多様化して、とらえどころのないニーズを追いかけるのですが、正解のないはっきりしない状態が続いています。(サービス業)
- ・燃料費(車輜)、光熱費(電気代)の上昇、値上がりにより不安を持っている。今後の国際情勢により零細企業も経営に左右される。(サービス業)
- ・①消費税8%実施による受託落ち込み。②回復の兆しなし。③10%実施されると危機的状況を招く。(サービス業)
- ・何らかの景気刺激が必要。(サービス業)
- ・夏の天気が不調で仕事が進まないが、大雨の影響で雨モレが大量発生、特に京都市で仕事が増えている。秋も天気に左右されるだろう。(建設業)
- ・4月までの駆け込み受注の反動なのかも?(建設業)

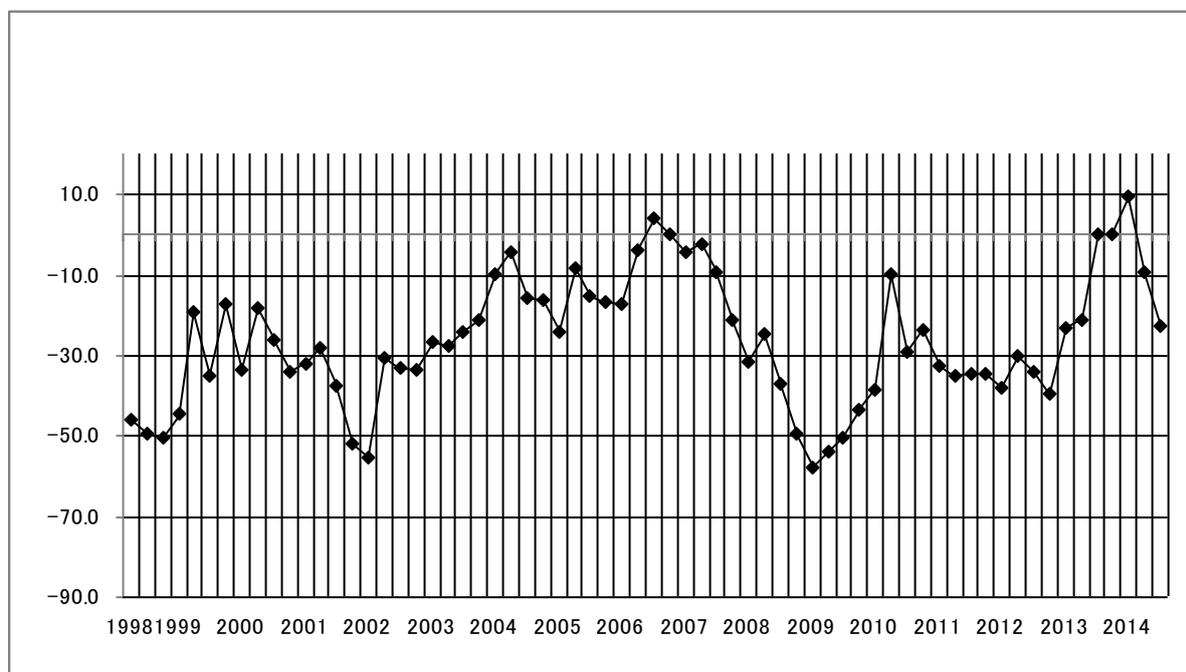
DI 指数一覧表

	業 況		売 上 高		採 算 (経常利益)	
	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し
全 体	▲22.6	▲17.9	▲28.6	▲21.4	▲28.6	▲28.6
建 設 業	▲14.3	▲21.4	▲28.6	▲14.3	▲35.7	▲42.9
製 造 業	▲22.2	11.1	▲11.1	▲11.1	▲11.1	▲22.2
卸 売 業	▲25.0	▲25.0	▲12.5	▲12.5	▲12.5	▲37.5
小 売 業	▲25.0	▲12.5	▲41.7	▲16.7	▲37.5	▲20.8
サービス業	▲24.1	▲27.6	▲27.6	▲34.5	▲27.6	▲27.6
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

	採算 (経常利益) の水準		取引の問い合わせ		従 業 員	
	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し
全 体	▲1.2	10.7	▲32.1	▲23.8	15.5	20.2
建 設 業	0.0	0.0	▲21.4	▲14.3	14.3	14.3
製 造 業	11.1	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
卸 売 業	25.0	25.0	▲25.0	▲12.5	0.0	25.0
小 売 業	▲25.0	▲4.2	▲45.8	▲33.3	16.7	12.5
サービス業	6.9	17.2	▲37.9	▲31.0	24.1	34.5
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

	資金繰り		長期資金借入難易度		短期資金借入難易度	
	7-9月期 動向	10-12月期 見通し	7-9月期 動向	10-12月期 見通し	7-9月期 動向	10-12月期 見通し
全体	▲3.6	▲6.0	0.0	▲1.2	2.4	0.0
建設業	0.0	▲7.1	0.0	0.0	7.1	7.1
製造業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
卸売業	12.5	▲12.5	0.0	0.0	0.0	0.0
小売業	▲12.5	▲4.2	8.3	0.0	8.3	0.0
サービス業	▲3.4	▲6.9	▲6.9	▲3.4	▲3.4	▲3.4
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

本調査開始（1998年 第二四半期）以降 業況DI指数推移グラフ（全体）



※縦目盛り軸は、全業種の業況DI指数を表しています。横目盛り軸は、調査年を西暦で表しています。

大津商工会議所

〒520-0806

滋賀県大津市打出浜 2 番 1 号

コラボしが 21 9 階

TEL : 0 7 7 - 5 1 1 - 1 5 0 0

FAX : 0 7 7 - 5 2 6 - 0 7 9 5

URL <http://www.otsucci.or.jp/>